

船舶技術研究所報告（第37巻第5号）に掲載の論文等の紹介

研究調査資料の紹介

船舶運航上のヒヤリハット事例とその研究

室原 陽二、伊藤 泰義、沼野 正義、桐谷 伸夫

海難事故の大半は船舶運航者（以下、運航者という。）の人為原因とされているが、今日、運航者がおかれている環境に目を向けるとき、外航船舶においては、人員削減に伴う海技免状受有職員の少数化、乗組員の多国籍混乗化、海賊行為の横行など、内航船舶では、職員を含む乗組員の少数化、タイト・スケジュールなどを見ることができる。共通する環境条件を一口にすれば、労務条件の過密化や処理すべき情報の多様・多量化などである。

したがって、運航者は、学習、情報の取得、注意の配分等々に以前にも増す努力が強いられているとみられる。この観点に立って、本稿は（社）日本造船研究協会が平成9年に実施した「ヒヤリハット*アンケート調査」データ及び当研究所で実施した船長経験者への追アンケート結果等についてデータ解析を進めた。

海難事故の防止に当たっては、これまでに多面の提言と対策等がなされてきた。その一つが各種原因の摘示であるが、本稿は、これら原因をもたらず運航者に共通するヒューマンファクターに視点を置いてみたものである。若干の考察を付記したものの、更なる研究が必要であるし、進展させたいと考えている。それには多くの方々からご見識をいただくことも不可欠で、先ずはその過程として得られたデータを発表した段階である。資料提供をいただいた（社）日本造船研究協会、一、二次両アンケート等上に貴重な事例やご意見等を下さった運航関係者各位に心から謝意を述べるとともに、今後の検討を進める上でのご協力を願うものである。

*運航過程でヒヤッとしたり、ハットしたりする場面のことを言い、“未然事故”とも呼ばれ、かつこの遭遇機会が多いと事故に結びつくとも言われている。